

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

伝統芸能・文化財を活用した交流・定住促進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

広島県安芸郡坂町

3 地域再生計画の区域

広島県安芸郡坂町の全域

4 地域再生計画の目標

広島県坂町の人口は、昭和 45 年の 14,223 人をピークに減少基調で推移し、平成 22 年には一旦増加に転じたが、平成 27 年には再び減少に転じ、現在は、13,101 人（平成 29 年 1 月 1 日現在）である。坂町人口ビジョンでは、このままの状態推移した場合、平成 72 年の町の人口は、10,927 人まで減少すると推計している。

このような状況にあつて、平成 28 年 2 月に策定した坂町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「親から子へ、子から孫へと歴史・文化・地域を守っていくことのできるまち」を基本理念として三世代誰もが、ふるさとでの生活に幸せを感じ、ふるさとを誇り、ふるさとを愛することができる町を目指し、「坂町への新しい人の流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「坂町に住みたくなる賑わいの創出」、「安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の 4 つの基本目標を掲げ、事業を推進することとしている。

本町には、瀬戸内海の島々が一望できる風光明媚な横浜公園や、西日本最大級の人工海浜であるベイサイドビーチ坂などの施設を有し、毎年春には「坂町悠々健康ウォーキング大会」、夏には「潮の香まつり」、秋には「秋祭り」、「広島ベイマラソン大会」等が開催されるなど、年間約 387,000 人の観光客が、本町を訪れている。

しかし、その大半は、民間の温泉施設への日帰り入浴客とベイサイドビーチ坂への夏季の海水浴客となっていることから、本プロジェクトの『伝統文化復活 PR 事業』、『郷土芸能鑑賞学習事業』、『文化財・史跡広報事業』を一体的に実施することにより、本町の伝統芸能、文化財を観光資源として充実させ、交流人口の増加等、更なる観光振興を図るものとする。

また、伝統文化の継承を支援し、その活性化に取り組みながら、伝統行事等に参加・体験・学習する機会を子どもたちに提供し、幼少期から本町の歴史や文化に触れることにより、郷土愛を醸成することで、定住化を促進するものとする。

【数値目標】

K P I	総観光客数	年 月
申請時	387,100 人	平成 27 年 12 月
初年度	390,000 人	平成 29 年 12 月
2 年目	395,000 人	平成 30 年 12 月
3 年目	400,000 人	平成 31 年 12 月

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本町の観光客数の大半は、民間の温浴施設への日帰り入浴客とベイサイドビーチ坂への夏季の海水浴客となっていることから、『伝統文化復活 PR 事業』、『郷土芸能鑑賞学習事業』、『文化財・史跡広報事業』を一体的に実施し、本町の伝統芸能、文化財を観光資源として充実させるとともに、『広島ベイマラソン大会』、『坂町悠々健康ウォーキング』大会を継続的に開催することにより、交流人口の増加、観光入込客数の増加を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

- (1) 事業名：伝統芸能・文化財を活用した交流・定住促進プロジェクト
- (2) 事業区分：観光業の振興
- (3) 事業の目的・内容

(目的)

坂町は山が海にせまっておろ、地形的にもともと耕地面積が少なかったため、江戸時代に京阪神や対馬にまで出稼ぎにいった歴史を見ることが出来る。出稼ぎに行った人々が、その先でそれぞれ習得した芸能文化を持ち帰り、江戸中期、村中の各所に芸能の座を造り、お互いに研鑽、改良を重ね独特のものを作りあげた。その集大成が町内各地区から地元の秋祭りに奉納される頂戴、獅子舞、屋台、曳船である。

また、坂町には日本古来の伝統音楽である雅楽を明治 28 年の設立以来、100 年以上も継承し続け、平成 23 年に坂町指定無形文化財となった「坂雅正会」がある。町内の諸行事、周辺市町や県外でも演奏活動を行い、その優雅な音色は高い評価を受け、広島県地域文化功労者賞等を受賞し、現在も伝統音楽の保存、継承と地域文化の普及、向上に貢献している。

こうした地域の伝統文化は、地域のつながりの中で、伝承されてきたが、生活様式の多様化や新市街地の整備による新たな住民の流入等によ

り、地域の絆が希薄になってきており、地域によっては、人口減少・少子高齢化なども相まって、地域の行事を継続することが難しくなっているところもある。

このため、地域、学校等と連携し、古くから守り伝えられてきた地域文化や伝統芸能に触れる機会を拡充し、郷土に対して、より愛着と誇りを持ち、将来に亘り住み続けたいと思えるようにするとともに、地域文化や伝統芸能の魅力を高めることにより、町外からの子育て世代の転入を増やし、人口減少基調から均衡・増加の流れへの糸口となることを目的とする。

更に、本町の伝統芸能・文化財を、今後これまで以上に観光資源として積極的に活用することにより、交流人口増、観光入込客数の増加に繋げ、本町の観光振興を図るとともに、将来的な移住定住に向けた足掛かりをつくることを目的とする。

(事業の内容)

●伝統文化復活 PR 事業

本町の八幡山八幡神社には、明治4年の廃藩置県時に広島浅野藩より譲り受けた「六角御輿」があり、昭和40年代前半まで約100年間使われていたが、担ぎ手が少なくなったことにより、そのまま約50年間八幡神社の御輿蔵に納められた状態で今日に至っている。この由緒ある六角御輿が劣化状態にあることから、本町が文化財として寄贈を受けた後に修復し、公共施設内で展示し、後世に継承するとともに、観光資源として活用することにより、交流人口の増加、観光客数の増加に繋げる。

さらに、修復した六角御輿を活用し、町内の中学生により本町の夏の風物詩である潮の香まつりや秋祭り、さらには、ひろしまフラワーフェスティバルなど町内外のイベントへ参加することにより、町内外に町の伝統芸能をPRし観光誘客を図る。

また、このように本町に伝わる御輿の伝統芸能を町の子どもたちに触れる機会を創出し広げることが、地域に強い愛着を持つきっかけとなり、本町を愛する子どもたちが、将来に亘り定住し、本町における地域づくりの核となるよう育てていく。



六角御輿

●郷土芸能鑑賞学習事業

本町には日本古来の伝統音楽である雅楽を明治28年の設立以来、100年以上も継承し続け、平成23年に坂町指定無形文化財となった「坂雅正会」がある。町内の諸行事、周辺市町や県外でも演奏活動を行い、その優雅な音色は高い評価を受け、広島県地域文化功労者賞等を受賞し、現在も伝統音楽の保存、継承と地域文化の普及、向上に貢献している。

しかしながら、郷土芸能である坂雅正会の雅楽を鑑賞する機会が少ないことから、坂町文化協会等の主催による町内外の住民を対象とした雅楽鑑賞会を開催し、本町の郷土芸能に触れる機会を創出するとともに、交流人口の増加を図る。

また、坂雅正会の会員が町内の中学校に出向き、雅楽で用いる楽器の説明を行うなど郷土芸能を学ぶ機会を創出する。



坂雅正会

●文化財・史跡広報事業

減ることはあっても決して増えることの無い貴重な文化財・史跡をよりよく知り、親しみ、愛し、自分たちのものとして保護育成し、慈しみと愛情をもって次世代に正しく継承していくとともに、来訪者へ分かりやすく説明するための文化財等案内板を設置する。また、文化財、史跡を中心とした町の紹介冊子を作成するとともに、ホームページ、SNSにより情報発信することにより、交流人口増、観光入込客数の増加に繋げる。

→各年度の事業の内容

伝統文化復活 PR 事業

- 初年度) 八幡山八幡神社から、本町が六角御輿を文化財として寄贈を受け、その後専門業者による修繕を行う。
- 2年目) 修繕が終了した六角御輿を、役場庁舎に隣接している町民センター1階の展示室にて、他の文化財と共に展示することにより後世に継承するとともに、観光資源として活用する。また、六角御輿を町内外のイベント等に参加させることにより、町内外に町の伝統文化を PR し観光誘客を図る。

郷土芸能鑑賞学習事業

- 初年度) ー
- 2年目) 町内外の住民を対象とした雅楽鑑賞会を坂町文化協会等の主催により開催し、本町の郷土芸能に触れる機会を創出するとともに、交流人口の増加を図る。

文化財・史跡広報事業

- 初年度) 来訪者へ分かりやすく説明するための文化財等案内板5基を設置する。また、当町の文化財、史跡を中心とした紹介冊子を作成する。
- 2年度) 来訪者へ分かりやすく説明するための文化財等案内板2基を設置する。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

坂町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「親から子へ、子から孫へと歴史・文化・地域を守っていくことのできるまち」を基本理念と掲げ、基本目標2「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の中で、家族愛・郷土愛の醸成のため、郷土芸能文化財の保存・継承に対する支援、伝承文化に触れる機会の提供に取り組むこととしており、当該プロジェクトは坂町まち・ひと・しごと創生総合戦略を推進するものである。また、総合戦略の基本目標3「坂町に住みたくなる賑わいの創出」の指標として、観光客数（5年間で9,712人増）を定めており、本プロジェクトはこの目標達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

K P I	観光客数	年 月
申請時	387,100 人	平成 27 年 12 月
初年度	390,000 人	平成 29 年 12 月
2 年目	395,000 人	平成 30 年 12 月
3 年目	400,000 人	平成 31 年 12 月

(6) 事業費 (千円)

合計	年度	H 2 9	H 3 0	計
	事業費計	11,029	2,600	13,629
区 分	需用費	8,295	0	8,295
	委託料	1,234	0	1,234
	工事請負費	1,500	600	2,100
	補助金	0	2,000	2,000

(7) 申請時点での寄附の見込み

年度	H 2 9	計
法人名	アサガミ株式会社	
見込み額 (千円)	1,000	1,000

(8) 事業の評価の方法（P D C A サイクル）

（評価の手法）

外部有識者により構成される坂町総合戦略推進会議において、K P I の実績値および事業内容を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

（評価の時期・内容）

毎年度 7 月に前年度の K P I の実績値について、坂町総合戦略推進会議等による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

（公表の方法）

目標の達成状況については、検証終了後、坂町ホームページにて公表する。

(9) 事業期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 1 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 広島ベイマラソン大会

事業概要：毎年11月に開催されている広島ベイマラソン大会は、平成29年で27回目を迎え、広島県内最初のフルマラソン大会として定着している。ハーフマラソンの部、ジョギングの部（5km）を含め、毎年約1,500人強のランナーが県内外から参加しており、本町の交流人口増に大きく寄与している。

事業主体：広島ベイマラソン大会実行委員会・坂町・坂町教育委員会

事業期間：平成2年～

(2) 坂町悠々健康ウォーキング大会

事業概要：本町は、「悠々健康ウォーキングのまち」を宣言し、「ウォーキングのまち坂町」を全国に発信している。毎年3月に開催されている悠々健康ウォーキング大会は、10km、5km、2kmの部で、毎年約1,200人の参加が町内外からあり、本町の交流人口増に大きく寄与している。

事業主体：悠々健康ウォーキング大会実行委員会・坂町・

坂町教育委員会

事業期間：平成24年～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

外部有識者により構成される坂町総合戦略推進会議において、KPIの実績値および事業内容を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度7月に前年度のKPIの実績値について、坂町総合戦略推進会議等による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証終了後、坂町ホームページにて公表する。